

履修ガイド2018

履修の手引き・シラバス

文 学 部



藤女子大学

履修の手引き

1. 大学共通科目

大学共通科目の必修科目及び単位数は次のとおりである

2018年度以降入学生		2017年度以前入学生	
科目名	単位数	科目名	単位数
キリスト教概論	2単位	キリスト教学	2単位
女性とキャリア I	1単位	聖書学	2単位
合計 2 科目	3 単位	女性とキャリア	1 単位
		合計 3 科目	5 単位

2. 外国語科目

〈2015年度以降入学生〉

外国語科目

- ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語は、各外国語の初級 AI・AII・BI・BII の 4 科目を履修しなければその中級を履修することはできない。
- 英語の場合は、科目を自由に組み合わせてよい。ただし、プレイスメントテストを受けて、Academic Communication A または Academic Communication B を履修することが望ましい。
- 受講者が多い場合は、人数制限をすることがある。その場合には、調整結果を掲示により連絡するので、確認してから履修登録をすること。

英語文化学科

初級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、中級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、上級ドイツ語 I・II	このうち 1 外国語 8 単位以上選択必修
初級フランス語 AI・AII・BI・BII、中級フランス語 AI・AII・BI・BII、上級フランス語 I・II	
初級中国語 AI・AII・BI・BII、中級中国語 AI・AII・BI・BII、上級中国語 I・II、中国語実践演習 A・B、中国語文献解読演習 A・B	
初級韓国語 AI・AII・BI・BII、中級韓国語 AI・AII・BI・BII、上級韓国語 I・II、韓国語実践演習 A・B、韓国語文献解読演習 A・B	

日本語・日本文学科

Academic Communication A・B (2018 年度以降入学生)、Academic Communication AI・AII・BI・BII (2017 年度以前入学生)、Essential Vocabulary & Grammar、Practical English A・B・C・D、Interactive English A・B・C・D、Academic Listening & Note-taking、Academic Speaking & Discussion、Academic Reading AI・AII・BI・BII、English for Global Communication A・B、CLIL English A・B	このうち 1 外国語 8 単位以上または 2 外国語各 4 単位以上合計 8 単位以上選択必修
初級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、中級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、上級ドイツ語 I・II	
初級フランス語 AI・AII・BI・BII、中級フランス語 AI・AII・BI・BII、上級フランス語 I・II	
初級中国語 AI・AII・BI・BII、中級中国語 AI・AII・BI・BII、上級中国語 I・II、中国語実践演習 A・B、中国語文献解読演習 A・B	
初級韓国語 AI・AII・BI・BII、中級韓国語 AI・AII・BI・BII、上級韓国語 I・II、韓国語実践演習 A・B、韓国語文献解読演習 A・B	

※ 2 外国語を卒業要件として履修する場合、英語以外の外国語の組み合わせは、原則として初級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、初級フランス語 AI・AII・BI・BII、初級中国語 AI・AII・BI・BII、初級韓国語 AI・AII・BI・BII の、いずれかで履修しなければならない。

文化総合学科

Academic Communication A・B (2018 年度以降入学生)、Academic Communication AI・AII・BI・BII (2017 年度以前入学生)、Essential Vocabulary & Grammar、Practical English A・B・C・D、Interactive English A・B・C・D、Academic Listening & Note-taking、Academic Speaking & Discussion、Academic Reading AI・AII・BI・BII、English for Global Communication A・B、CLIL English A・B	このうち 1 外国語 8 単位以上選択必修
初級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、中級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、上級ドイツ語 I・II	
初級フランス語 AI・AII・BI・BII、中級フランス語 AI・AII・BI・BII、上級フランス語 I・II	
初級中国語 AI・AII・BI・BII、中級中国語 AI・AII・BI・BII、上級中国語 I・II、中国語実践演習 A・B、中国語文献解読演習 A・B	
初級韓国語 AI・AII・BI・BII、中級韓国語 AI・AII・BI・BII、上級韓国語 I・II、韓国語実践演習 A・B、韓国語文献解読演習 A・B	

- ◇ 3 学科とも、上記の卒業要件以上に外国語を修得した場合は、自由選択単位として算入される。
- ◇ 教職免許状を取得する場合は、卒業要件を満たすと同時に、教職課程履修要項で外国語コミュニケーションの科目として指定されている科目の中から、2 単位を履修しなければならない。

3. 他学科からの選択必修〈2017 年度以前入学生〉

3 学科とも所属学科以外に開かれている科目（クラスター基礎科目）を 4 単位以上選択必修として履修しなければならない。クラスター基礎科目については『クラスター履修ガイド』を参照すること。尚、この 4 単位は 1・2 年次までに履修することが望ましい。

4. 英語文化学科専門科目

1 カリキュラムの概要

英語文化学科のカリキュラムは、「学科基礎科目」と「卒業研究関連科目」は必修科目ですが、それ以外の科目は選択必修科目あるいは選択科目です。ですから自分の興味を引きそうな科目ばかりを履修することもできますし、さらに他学科の科目も含めて異なる領域の科目をいくつも履修して、自分の関心の幅を広げることも可能です。ただし、このカリキュラムは 4 年次の卒業研究（卒業論文）に最終的に結実することを目標として編成されていますから、なるべく早い時期に自分の関心がどの専門領域に向かっているかを見極めることが大事なのはいまでもありません。

そのために「文学・文化専修」と「言語・コミュニケーション専修」という二つの「専修」が用意されています。「専修」は「コース」とは違って、強い拘束力をもつものではありません。「コース」のように入り口によって進む道が違ってくるというのではなく、入り口はひとつですが、ゴールがふたつ用意されているものと考えてください。これは、皆さんが卒業研究に向けて 4 年間勉強してゆくための道標のようなものです。最終的にどの専修で卒業論文を書くかによって、どの専修を修了するかが決まります。

なお、学科が用意している 2 専修とは別に、文学部が用意している専修として、「キリスト教専修」

を選択することもできます。「キリスト教学専修」を選択する場合でも、英語文化学科を卒業すること
に変わりはありませんから、学科が指定する必修科目や選択必修科目を履修して、学科卒業要件を充
たさなければなりません（「学生便覧」の179ページ参照）。

2 専修の紹介

「文学・文化専修」

地域の言語文化に最も深く根ざした営みとしての文学を中心として、英語圏の文化、社会、歴史、
思想などの諸領域を幅広く学びたいと思う人のための専修です。同時に、特定の地域の枠を越えて、
世界を結ぶ国際言語としての英語の文化の諸相について学び、国際社会にたいする認識を深めてゆき
ます。また、言語文化の基層にある価値観、宗教観、倫理感などを探りながら、ジェンダー、人種、
移民問題などについて考察の幅を広げてゆきます。

「言語・コミュニケーション専修」

単なる語学学習を超え、英語はもちろんのこと、母語である日本語を含め世界で話されている言語
そのものに興味を抱いて、もっと深く研究したい、あるいは言語・非言語情報の伝達を通して行なわ
れるコミュニケーションのメカニズムについて学びたいと思う人のための専修です。言語の歴史や音
声現象、単語・文の構造、会話の仕組みなど、言語をさまざまなレベルにおいて学び、社会・文化と
いった「ことば」を取り巻く環境にも目を向けることによって、言語コミュニケーション活動の本質
を探究します。

3 科目の区分と履修上の注意

英語文化学科のカリキュラムはいくつかの区分に分類されています。そして区分ごとに必修単位や
選択必修単位が設定されています。以下、それぞれの区分について簡単に説明しながら、履修上大切
なポイントを挙げてゆきます。

(1) 学科基礎科目

本学科で研究してゆくための基礎的な英語力を養う科目群です。すべて1、2年次に開設され、少
人数クラスの科目が主体となります。どれも必修科目ですので、取りこぼしのないように気をつけて
下さい。3年次に進級するためには、1年次の学科基礎科目10単位をすべて取得していることが条
件となります。学科基礎科目にひとつでも履修漏れがあると、3、4年次に再履修しなければなりま
せん。その際、3、4年次開設科目と時間割上ぶつかってしまい、受講したい科目を自由に受講でき
ないばかりか、場合によっては4年間で卒業できないという事態も生じますので十分に注意してくだ
さい。

学科基礎科目は90分の授業を二分割したり、多くの科目をネイティブの教員が担当するなど、開講
形態に工夫を凝らして、科目間で互いに連動した総合的な授業が展開されます。詳しくはオリエン
テーションで説明されますが、そのときに配布される資料や時間割をよく参照して、間違いのないよ
うに受講して下さい。

(2) 専門講読科目

英語文化の研究は基本的に読むことを通して行ないます。このことから、「学科基礎科目」の

「Reading I～Ⅳ」に加えて、「専門講読科目」を用意しています。専修ごとに「文学・文化講読」科目と「言語・コミュニケーション講読」科目が複数開設され、さらに「共通」の区分には「時事英語講読」と「Advanced Reading」が置かれています。自分が選択しようと考えている専修の科目からは2科目2単位以上を選択履修しなければなりませんし、専門講読科目全体から4科目4単位以上を必ず選択履修しなければなりません。

(3) 基礎演習科目

1年次用の演習科目ですが、2、3年次の本格的な演習に入る前の、演習入門的な性格をもつ科目です。「文学・文化基礎演習」から1科目2単位以上、「言語・コミュニケーション基礎演習」から1科目2単位以上を、必ず選択履修しなければなりません。いろいろな領域や教員との交わりを作るという意味でも、全体から3科目6単位程度を履修してみるのがよいかもしれません。

(4) 講義科目

専修ごとに複数の講義科目が開設されており、「共通」の区分には複数の「国際教養講義」と「特殊講義（集中講義）」が用意されています。

1年次に開講している概論の科目は、前期と後期の両科目を続けて履修することが効果的です。

自分が選ぶことになる専修の講義科目からは多めに選択履修しなければなりませんから、十分な注意が必要です。1、2年次には両方の「専修」と「共通」の区分から学科選択必修分を履修して（3区分を合わせて5科目10単位、もちろんそれ以上履修することが望ましい）、どの専修を選ぶかが定まった3、4年次には自分が選んだ専修の講義科目をさらに上乘せして履修する（専修ごとに設定された選択必修単位を充足させる）というのがよい履修方法でしょう。

(5) 実践英語科目

実践英語科目には、学科基礎科目で培った英語力をさらに発展させるために効果的な科目が用意されています。リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能を向上させたり、さらには翻訳や通訳の技能を学んだりすることができます。

英語文化学科の学生は、「イングリッシュ・スキルズ」の区分から2科目2単位以上を必ず選択履修しなければなりません。

(6) 演習科目

卒業研究につながる重要な、そして本格的な演習科目です。自分が選ぼうと考えている専修の区分から、4科目8単位以上を必ず選択履修しなければなりません。2年次と3年次に開講されますから、2年次、3年次とも、それぞれ2科目4単位は必ず履修するようにしてください。また2年次では、選択する専修が定まっていない場合も少なくありません。各自の事情に応じて、2年次では、専修の異なる演習科目を履修したり、複数の教員の演習科目を履修して、選択する専修が定まった3年次には、自分が選択した専修の演習科目を重ねて履修するという方法を採用することもできます。

(7) 卒業研究関連科目

「Academic Writing I」と「Academic Writing II」は3年次の必修科目です。4年次で卒業論文を書くための準備として欠かすことのできない大切な授業です。「卒業研究演習」は4年次必修の演習科目ですが、自分が選んだ卒業研究のテーマに関連する内容の演習となります。また、「Advanced Writing」は選択科目の扱いとなっていますが、英語で卒論を書くための実践的な支援を主旨としてい

る科目ですから、実質的に、すべての学生が受講することになります。

4 卒業研究について

英語文化学科を卒業するためには、「文学・文化専修」か「言語・コミュニケーション専修」のいずれかを選んで、4年次に「卒業研究」を修得する必要があります。「卒業研究」は最終的に卒業論文という形で提出します。

卒業論文は、5,000語以上の長さの英文で書かなければなりません。自分の考えを、論旨を組み立てて正確に表現する力はもちろんのこと、かなり高度な英作文の力も求められます。

提出期限は4年次の12月15日正午（時間厳守）です。詳しくは『学生便覧』の「英語文化学科卒業規程」を参照して下さい。

5 英語文化学科の教員と専門分野

井筒美津子	准教授	言語学（語用論、談話分析、認知言語学、社会言語学）
大桃 陶子	准教授	イギリス文学、イギリス文化
岡本 晃幸	講師	アメリカ文学、アメリカ文化
木村 信一	教授	アメリカ文学、アメリカ文化
工藤 雅之	准教授	英語教育、教育学、応用言語学
對馬 康博	講師	認知言語学（認知文法、構文文法）、英語学
英 美由紀	准教授	イギリス文学、イギリス文化
Mueller, Charles	准教授	第二言語習得、英語教育
山木戸浩子	准教授	言語学（特に形態論、役割語研究）
Redlich, Jeremy	准教授	ドイツ文学、イギリス文学

6 英語文化学科 4年間の履修の一例

	必修科目	選択必修科目	選択科目	履修上のヒント
一年	キリスト教概論 (2) 外国語 (4) Grammar I, II (1) Writing I, II (1) Oral English I, II (4) Reading I, II (2) Voice & Articulation I, II (1) Vocabulary Building I, II (1) 女性とキャリア I (1) (計 17 単位)	教養科目 (8) 基礎演習 (4 - 6 程度) 講義科目 (4 - 8 程度) (計 16 - 22 単位)	TOEFL, TOEIC 関連科目 児童英語関連科目 他学科開講科目 など	基礎演習科目の履修について：3 科目 6 単位を目安に履修することが望ましい。
	計 32 単位以上			
二年	外国語 (4) Grammar III, IV (1) The Art of Writing I, II (2) Oral English III, IV (2) Reading III, IV (2) Strategies for Listening I, II (1) (計 12 単位)	専門講読科目 (4 程度) 両専修の講義科目 (8 程度) 国際教養講義 (2) Advanced Reading (1) 演習科目 (8 程度) (計 23 単位程度)	女性とキャリア II (1) TOEFL, TOEIC 関連科目 児童英語関連科目 特殊講義 他学科開講科目 など	演習科目の履修について：2 年次には 8 単位程度、3 年次には 4 単位を目安に履修することが望ましい。
	計 32 単位以上			
三年	Academic Writing I, II (2)	専門講読科目 (2 程度) 専修講義科目 (12 程度) 国際教養講義 (2) Advanced Reading (1) 演習科目 (4) English Discussion & Presentation (2)	通訳ワークショップ 児童英語関連科目 特殊講義 他学科開講科目 など	演習科目の履修について：どの専修で、どの教員の指導のもとで卒論を書くかを決めて、選択予定の専修の演習を 4 単位、必ず履修する。 実践英語科目の履修について：イングリッシュ・スキルズを 2 科目 2 単位、必ず履修する。
	計 32 単位以上			
四年	卒業研究演習 (4) 卒業研究 (4)	専門講読科目 (2 程度) 専修講義科目 (4 程度) 実践英語科目の中で選択必修となっている科目 (2 以上)	Advanced Writing 特殊講義 他学科開講科目 など	履修登録に当たって：卒業に必要な修得単位数の諸条件をチェックし、4 年次終了時点で卒業要件が間違いなくクリアされることを確認する。
	計 28 単位以上			
4 年間で計 124 単位以上				

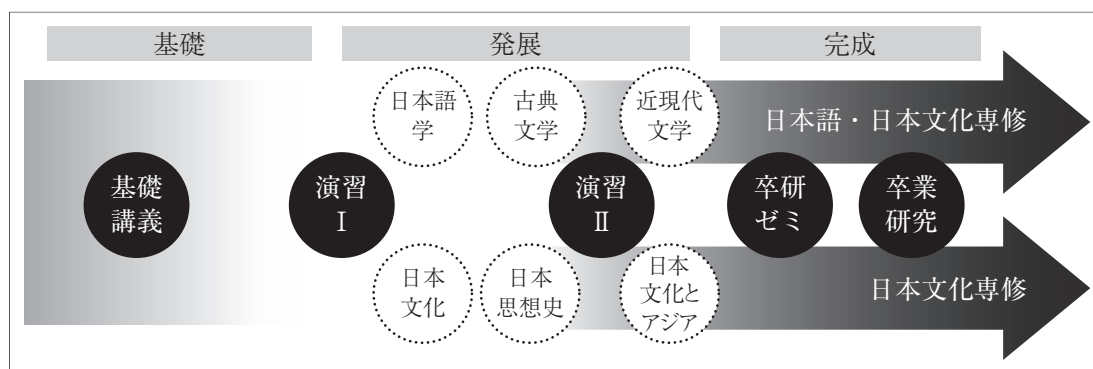
各学年の単位数はあくまで目安の数字です。実際には与えられた数字よりも多めに履修するように心がけて下さい。

5. 日本語・日本文学科専門科目

【表1】日本語・日本文学科カリキュラム

	科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
共通	基礎講義Ⅰ	日本語学	選択必修			4分野各2単位（計8単位）選択必修。 3年次進級要件に含まれる。
		古典文学				
		近現代文学				
		日本文化				
		漢文学				
	基礎講義Ⅱ	選択	選択			
	特殊講義		選択	選択	選択	
	演習Ⅰ		選択必修			2年次に2コマを履修すること。 専任教員全員で担当。
日本語・日本文学専修	日本語学研究		選択	選択	選択	
	古典文学研究		選択	選択	選択	
	近現代文学研究		選択	選択	選択	
	演習Ⅱ			選択必修	選択	
日本文化専修	日本思想史		選択	選択	選択	
	日本文化論		選択	選択	選択	
	日本文化とアジア		選択	選択	選択	
	日本文化と女性		選択	選択	選択	
	書道	書道Ⅰ	書道Ⅰ・Ⅱ	書道Ⅱ・Ⅲ	書道Ⅲ・Ⅳ	
		書道史	書道史 書論・鑑賞	書論・鑑賞		
	演習Ⅱ			選択必修	選択	
共通卒業研究関連科目	卒業研究ゼミⅠ			選択		一学年1コマ。 専任教員全員で担当。
	卒業研究ゼミⅡ				必修	一学年1コマ。 専任教員全員で担当。
	卒業研究				必修	
学科共通プログラム科目				選択		いずれか一つ以上のプログラムを履修すること。

【図1】 日本語・日本文学科カリキュラムの理念



日本語・日本文学科では、ディプロマポリシー（学位授与の方針）として、1「情報を収集し、読解・分析する力」、2「論理的かつ柔軟な思考力」、3「広く他に自己の見解を説得力をもって主張する力」、4「日本語と日本文学に関する専門性、日本文化に関する専門性」を掲げています。つまり、卒業の段階でこれらの力や素養を十分に身に付けてもらうことができるように、学科のカリキュラムを組み立てています。

■カリキュラムの柱——ディプロマポリシーの各能力を磨く科目群——

ディプロマポリシー各項目に関わる力を育てる基本的なプロセスは、表1の網掛けの科目群、および図1の黒丸で記した科目の流れに示されています。

この科目群には「基礎講義科目Ⅰ」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒研ゼミ」「卒業研究」の5種類の科目が含まれます。「基礎講義科目Ⅰ」は、本学科における各研究領域、ジャンルのいわば入門編に当たるもので、《基礎》となる知識や方法論を学ぶ場となります。「演習Ⅰ」は、やや専門的で具体的な課題に取り組みながら、「基礎講義科目Ⅰ」で学んだ基礎を発展させて「研究」に生かしてゆくための訓練をする場となります。「演習Ⅱ」は、参加者が各自の課題を設定して自力で調査研究し、その成果を他の参加者に対して「発表」する場、つまり、問題意識や方法論の訓練と同時に構想力や表現力・コミュニケーション力の鍛錬を行う場ともなるはずです。研究内容も「演習Ⅰ」よりさらに高いレベルのものが求められてきます。「卒研ゼミ」は、各自が「卒業研究」に直結するテーマを、これまでに培った知識と方法論とを傾けて可能な限り掘り下げてゆきながら、同時にそれを他の人々に対して十分な説得力を持つ形に（要するに「論文」のスタイルに）まとめ上げるための、より高度な「技術」を研鑽する場になるでしょう。こうして「卒研ゼミ」をクリアした暁には（理想的にゆけば）、「卒業研究」がほぼ完成しているということになるわけです。

■基礎段階——大学での学修の基盤づくり——

藤女子大学では、主に1年生を対象に「教養科目」を設け、ここで大学生としての基礎となる力や、社会に出て自己を実現してゆくための基盤となる素養を身につけてもらうことを目指していますが、本学科では、こうした学科の枠組みにとらわれない幅広い「教養科目」と、学科の学びの基礎を身につける「基礎講義科目」とを、大学における学修の基盤形成の場として位置付けています。

「基礎講義科目Ⅰ」は、このような基盤形成の意味を持つと同時に、「卒業研究」に結びつく関心領域を見つけてゆくという目的も持っています。自分自身の関心領域については、できれば1・2年次のうちにおおよそのところを絞り込んでおくのが望ましいでしょう。1・2年次中に「基礎講義科目Ⅰ」4分野各2単位（計8単位）を、2年次に「演習Ⅰ」4単位をそれぞれ必修として課しているのは、その絞り込みの目安にしてほしいという意図からです。

1・2年次に4分野（日本語学・古典文学・近現代文学・日本文化）の「基礎講義科目Ⅰ」を選択履修することは、自分の可能性と興味関心の対象を見極めるチャンスになるはずです。（早い学年のうちになるべく多くの領域にわたる講義に触れておくことが、その後の方向選択を容易かつ余裕あるものにしてくれるでしょう。）そして2年次にはひとまず「演習Ⅰ」を二つ選んで、自分のその関心が本物なのかどうか、今後その研究領域で研究を進めて行けるのかどうかを確認してみしてほしいのです。（もしここで自分の選択が誤っていたことに気づいたとしても、その後の研究の方向修正は、卒業までの2年間で十分可能なはずです。もちろんなるべくはそのようなことにならないよう、慎重に慎重を重ねてベストの選択をしてほしいと思います。）

■発展段階——専門性を深める専修科目——

日本語・日本文学科では、専門性を効果的に深めるための道筋として「日本語・日本文学」と「日本文化」の2専修を設けており、2年次から、自分がどの分野・領域で研究を進めてゆくか、希望する専修を絞り込んで行くことになります。

2年次の「演習Ⅰ」は専修ごとに分かれてはいませんが、科目名称に専修との関連性が示されているので、自分が進む専修をある程度意識して選択するようにしてください。

専修は、最終的には3年次末の「卒業研究」仮題目届提出時に確定することになりますが、あらかじめ3年次の初めに、いずれかの専修を選択します（それに従って「演習Ⅱ」「卒業研究ゼミⅠ」を選択し履修することになります）。

専修科目は、講義科目（日本文化専修は「書道科目」を含む）と「演習Ⅱ」からなり、講義科目は、担当教員による研究成果を含むそれぞれの分野の先端知識が、いわゆる「講義」形式で提供される形の授業が中心になります。この専修科目を通じて、自分が選択する分野・領域に関する知識や問題意識、方法論などを学び取ることにより、より高度な専門性が身につけられるでしょう。

また文学部では、他学科で開講される様々な科目も、学科の垣根をこえて選択履修できる体勢を整えました（一部、条件を満たさないと履修できない科目等もあります）。これは「教養科目」とは異なり、各学科が学科としての専門教育を目的として開く講義ですから、それぞれの分野を専門とする担当教員による最先端の知見と独自の方法論を傾けた講義内容を吸収することができます。こうしたバラエティ豊かな他学科開講科目を通じて他分野の専門性にもふれ、広い視野や様々な問題意識を身につけてください。

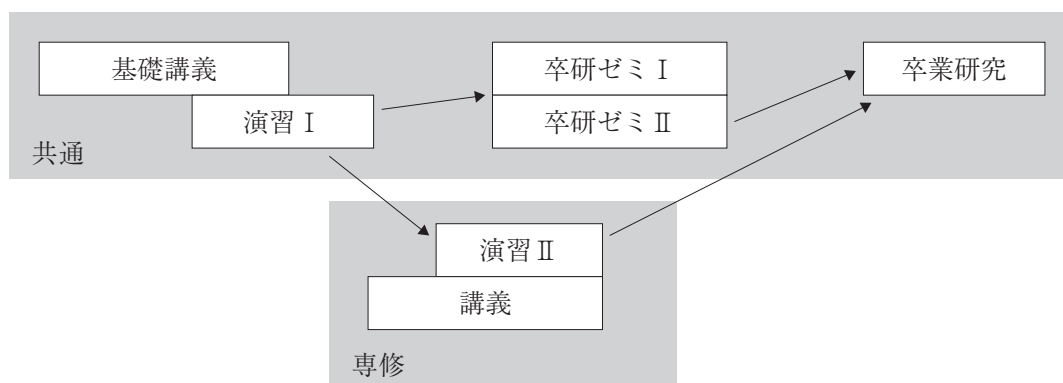
■完成段階——卒業研究関連科目——

「卒研ゼミ」は3年次から受講できますが（3年次は「卒研ゼミⅠ」）、この「卒研ゼミ」を受講するためには（「卒研ゼミⅠ」「卒研ゼミⅡ」いずれの場合にも）、「演習Ⅰ」1科目（4単位）をあらかじめ

め単位取得しておかなくてはなりません。3年次終了時にいずれかの「演習Ⅰ」を修得していない場合には、4年次必修の「卒研ゼミⅡ」が受講できないことになります。つまりその段階で留年が確定してしまうことになるので(図2参照)、この点は十分に注意してください。この条件を満たした上で、4年次には、いずれかの「卒研ゼミⅡ」を選択し、「卒業研究」をまとめることになります。

「卒業研究」は専修での学びを通じた専門教育の成果という性格をもつものではありませんが、本学科では、これをあえて専修科目に含めず、「共通」の枠組みに入れています。これは、高度な専門性を極める中で、広く応用できる汎用的能力を育てるという学科の考え方に基づくものです。一つの専門分野を追求する経験を通じて、職業の場など、生涯の中で出会う様々な専門分野の知識や技能への「アプローチの仕方」、情報社会においてみずから問題を発見し解決してゆくための汎用的能力を鍛え、しっかりと自分のものにしてもらいたいと考えています。

【図1】 日本語・日本文学科カリキュラムの理念



■キャリアを見据えた支援 ― 学科共通プログラム科目 ―

本学科では、専門性を高めたカリキュラムのほかに、将来を見据えたキャリア形成を支援するプログラム―「教員養成プログラム」「資格支援プログラム」「専門研究支援プログラム」「キャリア・リテラシー支援プログラム」―を開設しています。

これは、一般企業への就職を希望する人のみならず、資格取得を目指す人や、大学院進学などを目指す人のために、学科の専門性を活かしながら、進路に応じた力や知識、スキルが身につけられるよう、学科の専任教員が担当して展開する科目群です。卒業要件とはなっていませんが、3年次にこの科目群の中から少なくとも一つのプログラムを選択履修することが義務づけられています。これは、皆さんにキャリア形成への意識を持って学修を進めてもらいたいという狙いがあるためです。

具体的な科目としては、「国語教材研究」「国語科教員採用試験研究」「実用書道」(教員養成プログラム)、「アジアと日本」「文献資料論」(資格支援プログラム)、「論文読解」(専門研究支援)、「実践日本語表現」「コミュニケーションとプレゼンテーション a・b」(キャリア・リテラシー支援)が用意されています。

■卒業単位構成

以上の説明をもとに一人ひとりが独自のカリキュラムを設計してください。それに従って取得した単位数が、最終的に下の表に示した卒業要件を満たすようになっていけばよいのです。

学科専門科目	基礎講義科目Ⅰ	日本語学	2単位以上	計8単位以上
		古典文学	2単位以上	
		近現代文学	2単位以上	
		日本文化 (漢文学を含む)	2単位以上	
	演習Ⅰ		4単位以上	
	演習Ⅱ		4単位以上	
	卒業研究ゼミⅡ		4単位	
	卒業研究		4単位	
	選択した専修から		12単位以上	
	選択しない専修から		4単位以上	
大学共通科目	教養科目	そのほか	8単位以上	
		キリスト教概論	2単位	計22単位以上
		女性とキャリアⅠ	1単位	
		各区分から	各2単位以上 計8単位以上	
	外国語科目	そのほか	11単位以上	
			8単位以上	
	自由選択		46単位以上	
合計			124単位以上	

※大学共通科目のうち教養科目は、必修・選択必修・選択単位を含め、32単位を超えて卒業必要単位に算入することはできない。

※区分「学科共通プログラム科目」は6単位まで自由選択単位として算入できる。

※教職に関する科目は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。

※他学部学科専門科目及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、合わせて12単位まで自由選択単位として算入できる。

6. 文化総合学科専門科目

1 カリキュラムの概要

文化総合学科のカリキュラムは、「現代社会」と「歴史・思想」の2つの専修からなっています。「現代社会」専修の学問領域は、異文化コミュニケーション、文化人類学、国際関係論、法学、心理学などから構成されています。また、「歴史・思想」専修は、西洋史、日本史、哲学、倫理学、思想史などから構成されています。

これらの専修や学問領域は「コース」ではないので、これらの専修や学問領域にまたがって、自分の履修したい科目を選ぶことができます。文化総合学科では、社会の事象や課題を分析する人文社会科学（高校での「社会科系科目」をイメージして下さい）を数多く配置しており、その中でみなさんが好きなテーマをみつけていけるように設定されているのです。

テーマをみつけ深めていって卒業論文を仕上げるために、さまざまな科目を履修していく過程で自らが研究したいテーマをなるべく早くみつける必要があります。そのために、1年次から基礎的な学問を勉強し、学問の「積み上げ」をしていかなければなりません。

2 2つの専修について

I 「現代社会」専修

現代の社会と文化について、その制度や心理を含めて多面的に研究します。また、現代社会における異文化間のコミュニケーションのあり方についても研究します。

現代の社会は制度（＝システム）として構成されており、まず、それを研究対象とします。高校という「政治・経済」の内容にあたる政治学・法学・経済学・社会学・心理学などの社会科学系の分野がそれに該当します。

異文化コミュニケーションを研究するためには、相応の語学力が必要となりますから、語学学習もしっかりとおこないます。またこの研究の性質のため、特定の言語の習得とその言語を用いる国や民族の文化研究をセットにした履修が奨められます。このほか、言語以外の表現（芸術表現や映像による表現など）も研究対象となります。

II 「歴史・思想」専修

現代社会と文化をその成り立ちから理解するために、背景や基盤となっている歴史や思想について研究します。

歴史は、高校の「世界史」「日本史」に対応する「西洋史」「日本史」「東洋史」などの科目からなっています。歴史に興味のある人はこの分野を重点的に勉強することになります。しかし、日本史を研究する際にも世界のさまざまな国の歴史を知る必要があります。なお、ここには文化史や宗教史など、特定の事柄を中心とした科目もあります。

思想は、高校の「倫理」の内容に当たる「思想」「宗教」に関する科目から構成されています。具体的には、西洋の哲学、倫理学、思想、宗教を中心として、日本・中国の哲学、思想、宗教を含む古今東西の思想についての科目も用意されています。思想や宗教について深く研究したい人はこの分野を

重点的に勉強することになります。他の学問分野を扱いたいと考えている人も、思想や宗教はそれらの学問分野の基本的部分に関わってくることが多いですから、必要に応じて選択する場合もあるでしょう。

3 科目の区分と履修の心構え

文化総合学科の科目は授業の形態やレベルに応じて、以下のように区分されます。

(1) 入門科目

入門科目は各専門分野の入門的な内容を扱う講義形式の授業で、各専門分野に入るに当たって必要な知識や考え方について学びます。これらの科目はどのような専門分野に進むにしても基礎として役に立ちます。その多くは1、2年次に開講されているので、何を研究するかが決まっていなかった人や迷っている人はなるべく多くの入門科目を履修してみるとよいでしょう。

また入門科目を履修するためには、共通科目に配置されている該当の科目を履修することが必要です。(たとえば文化総合学科専門科目で入門科目である「文化人類学入門」を履修するためには、共通科目である「文化人類学」を履修していなければなりません。)

(2) 特講科目

特講科目は、一般的で基礎的な入門科目に比べて、より専門的で特殊化された内容を扱います。したがって入門科目をある程度履修して自分の研究したいテーマが少しずつ絞られてきたら、そのテーマに関連した特講科目を履修することになります。これらの科目の多くは、2、3年次に開講されています。

また、特講科目を履修するためには、該当する入門科目を履修することが必要です。

(3) 基礎演習

基礎演習は文化総合学科1年生を対象とした科目です。この科目は大学における学問研究の入り口として、どのように研究テーマを選んでいけばよいのか、どのように学んでいけばよいのかを身につけることを目的とします。必要な資料や文献の探し方、レポート作成や研究報告の仕方を、担当教員が具体的、個別的に指導します。教材は、原則として各担当教員の専門分野に関連したものが用いられます。

(4) 演習科目

演習科目は2、3年次に開講されている科目です。基礎演習と異なって、各専門分野担当教員の指導のもと、より専門的な内容が扱われます。卒業研究へとつながるテーマを見つけるためには2年次と3年次で連続して同じ専門分野の演習を履修することが望ましいです。しかし、自分の研究テーマが絞りきれない人は、2年次に他の専門分野の演習も履修することは可能です。

(5) 卒研演習

卒研演習は自分がこれまで学んできた成果を卒業論文にまとめるための科目です。指導を受けたい教員の卒研演習を履修するためには、少なくとも3年次にその教員の演習を履修しておく必要があります。

(6) 卒業論文

卒業研究は研究の成果を論文にまとめ上げることを指します。指導教員と学科の評価を受けて単位が認められます。

(7) 他学科の科目

文学部では、原則として所属学科以外の学科専門科目を履修することができます。ただし、なかには受け入れが予定されていない科目や担当教員の許可が必要な科目もありますので、シラバスや当該学科の履修の手引きを参照して下さい。

4 科目の区分と構成・履修の流れ

以下、履修に当たっての留意点をまとめておきます。

- ① 基礎演習は文化総合学科1年生の必修科目です。前期・後期の半期科目で、それぞれの担当教員ごとに「基礎演習(A)」(前期)と「基礎演習(B)」(後期)があります。自分の関心にあわせて前期と後期で別々の教員の科目を履修することになります。
- ② 演習科目は2、3年次に開講されており、それぞれの内容は異なるように構成されています。継続して履修すれば、その専門分野についてより深く学べるようになっていきます。専門分野によっては2年次の演習を履修していることが3年次の演習を履修するための条件とされる場合があります。3年次の演習はどの卒研演習を履修するか(どの教員のもとで卒業論文を書くのか)に関わってくるので、そのような場合には2年次演習を選択する際には、ある程度、卒業研究のテーマを想定しておく必要があります。ただし、教員によっては3年次演習のみの履修であっても、卒研演習の履修を認める場合があります。必ず2年次の演習選択時にシラバスなどで確認して下さい。
- ③ 学科が定める卒業のために必要な単位については、文学部の授業科目履修要項で確認して下さい。

5 文化総合学科の専任教員

文化総合学科所属の専任教員は以下のとおりです。

石井佑可子	准教授	社会心理学(対人距離化、メタ認知)
石田 晴男	教授	室町・戦国時代の政治社会史の研究
伊藤 明美	教授	異文化コミュニケーション論、英語教育論
上原 賢司	講師	現代の政治理論、グローバル正義論
大矢 一人	教授	占領期の地方教育改革史研究
勝西 良典	講師	近代哲学における諸研究
中田 貢	教授	社会科教育法
野手 修	教授	文化人類学、南アジアの社会変動
平井 孝典	講師	図書館情報学、19世紀フィンランドにおける情報アクセス環境構築の実務
松村 良祐	准教授	中世哲学(トマス・アクィナス、ボナヴェントゥラ)、キリスト教思想
松本あづさ	准教授	近世松前・蝦夷地に関する研究
真鶴 俊喜	教授	立憲主義をめぐる現代日本の諸問題
渡邊 浩	教授	ヨーロッパ中世史、キリスト教史

6 4年間の履修モデル

以下、卒論につながる専門分野（学科専任教員が担当する分野）について、大まかな履修モデルを示します。（☆以下の表の科目の履修のみで進級・卒業要件が満たされるわけではありません。進級・卒業要件については、該当項目をしっかりと確認して下さい。）

「現代社会」専修

異文化コミュニケーションの履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				異文化コミュニケーション特講 d Eng.for GC d	異文化コミュニケーション演習 d	
	前期				異文化コミュニケーション特講 c Eng.for GC d	異文化コミュニケーション演習 c	
2年	後期	その他教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にする こと）	外国語科目（英、仏、独が望ましい）		異文化コミュ特講 b 英（米仏）文化論 または中韓文化論 b の中から一つ	異文化コミュニケーション演習 b	
	前期				異文化コミュニケーション特講 a 英（米仏）文化史 または中韓文化論 a の中から一つ 女性論・映像表現 論・造形美術論の中 から一つ	異文化コミュニケーション演習 a	
1年	後期		外国語科目（英、仏、独が望ましい）	Eng.for GC b 異文化コミュニケーション論入門		学科の他の教員の基礎演習	
	前期	異文化コミュニケーション論		Eng.for GC a		「現代社会」基礎演習 A	

文化人類学の履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				文化人類学特講 A-d	文化人類学演習 d	
	前期				文化人類学特講 A-c 文化史*（アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ文化史のうちどれか一つ）	文化人類学演習 c	
2年	後期	その他教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にする こと）	外国語科目		文化人類学特講 A-b [身体表現論 造形美術論 韓国文化論 a または b]	文化人類学演習 b	
	前期				文化人類学特講 A-a [映像表現論 音楽社会学 a] 文化論*（アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ文化論、中国文化論 a または b のうちどれか一つ 1）	文化人類学演習 a	
1年	後期		外国語科目	文化人類学入門		学科の他の教員の基礎演習	
	前期	文化人類学				「現代社会」基礎演習 B	

心理学の履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				心理学特講 A-d 心理学特講 B-b	心理学演習 d	
	前期				心理学特講 A-c 心理学文献講読 b (女性論 b)	心理学演習 c	
2 年	後期	教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目	統計学入門 (※ 1 年開講科目だが、2 年履修を推奨)	心理学特講 A-b 心理学特講 B-a	心理学演習 b	
	前期				心理学特講 A-a 心理学文献講読 a (女性論 a)	心理学演習 a	
1 年	後期	心理学 (社会学)	外国語科目	心理学入門 (社会学入門)		学科の他の教員の基礎演習	
	前期					「現代社会」基礎演習 E	

国際関係論の履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				国際関係論特講 A-d	国際関係論演習 d	
	前期				国際関係論特講 A-c [音楽社会学 b]	国際関係論演習 c	
2 年	後期	教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目		国際関係論特講 A-b、国際関係論特講 B-a [身体表現論 造形美術論]	国際関係論演習 b	
	前期				国際関係論特講 A-a、国際関係論特講 B-a [映像表現論 音楽社会学 a]	国際関係論演習 a	
1 年	後期	国際関係論	外国語科目	国際関係論入門		学科の他の教員の基礎演習	
	前期					「現代社会」基礎演習 D	

法学の履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				法学特講 A-b	法学演習 d	
	前期				法学特講 B-b [音楽社会学 b]	法学演習 c	
2 年	後期	教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目		法学特講 A-a、法学特講 C-b [身体表現論 造形美術論]	法学演習 b	
	前期				法学特講 B-a 法学特講 C-a [映像表現論 音楽社会学 a]	法学演習 a	
1 年	後期	日本国憲法	外国語科目	基礎法学 A、B、C		学科の他の教員の基礎演習	
	前期					「現代社会」基礎演習 C	

「歴史・思想」専修

日本史の履修モデル

中世		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				歴史資料論 B 歴史資料論 D	日本史演習 A-d 日本史演習 B-d	
	前期				日本史特講 A-c 日本史特講 B-c	日本史演習 A-c 日本史演習 B-c	
2年	後期	その他教養科目（文化総合学科 所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目		日本史特講 A-b 日本史特講 B-b	日本史演習 B-a 日本史演習 B-b	
	前期				日本史特講 A-a 日本史特講 B-a 日本史特講 D	日本史演習 A-a 日本史演習 B-a	
1年	後期		外国語科目	日本史入門 A 日本史入門 B		学科の他の教員の基礎演習（ただし、「歴史・思想」基礎演習 C が望ましい）	
	前期	日本史 A 日本史 B				「歴史・思想」基礎演習 B	

近世		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				歴史資料論 B 歴史資料論 D	日本史演習 A-d 日本史演習 B-d	
	前期				日本史特講 A-c 日本史特講 B-c	日本史演習 A-c 日本史演習 B-c	
2年	後期	その他教養科目（文化総合学科 所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目		日本史特講 A-b 日本史特講 B-b 日本史特講 C-b 歴史・思想専任教員特講	日本史演習 A-b 日本史演習 B-b	
	前期				日本史特講 A-a 日本史特講 B-a 日本史特講 C-a 歴史・思想専任教員特講	日本史演習 A-a 日本史演習 B-a	
1年	後期		外国語科目	日本史入門 A 日本史入門 B 旧異文化入門 旧社会と制度入門 旧思想入門		学科の他の教員の基礎演習（ただし、「歴史・思想」基礎演習 B が望ましい）	
	前期	日本史 A 日本史 B				「歴史・思想」基礎演習 C	

西洋史の履修モデル

前近代		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				歴史資料論 A、西洋史文献講読 d、法学特講 B-b、古典ギリシア語 b	西洋史演習 d	
	前期				西洋史特講 A-c、西洋史特講 B-b、西洋史特講 C-b、西洋史文献講読 c、古典ギリシア語 a	西洋史演習 c	
2 年	後期	その他教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目（英、仏、独が望ましい）		西洋史特講 A-b、西洋史文献講読 b、東洋史特講 b、イギリス文化論、フランス文化論、ドイツ文化論、キリスト教文化論 b、ラテン語Ⅱ-a	西洋史演習 b	
	前期				西洋史特講 A-a、西洋史特講 B-a、西洋史特講 C-a、イギリス文化史、フランス文化史、ドイツ文化史、文総特殊講義 b（西洋史）、法学特講 B-a、キリスト教文化論 a、ラテン語Ⅱ-a	西洋史演習 a	
1 年	後期		外国語科目（英、仏、独が望ましい）	西洋史入門、東洋史入門 a、東洋史入門 b	ラテン語Ⅰ-b、古代・中世哲学史	学科の他の教員の基礎演習	
	前期	西洋史			ラテン語Ⅰ-a	「歴史・思想」基礎演習 A	

近代		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				歴史資料論 A、西洋史特講 D-b、西洋史文献講読 d、2 [国際関係論特講 A-d、法学特講 B-b]	西洋史演習 d	
	前期				西洋史特講 A-c、西洋史特講 C-b、西洋史文献講読 c、4 [国際関係論特講 A-c、音楽社会学 b、法学特講 A-a]	西洋史演習 c	
2 年	後期	その他教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目（英、仏、独が望ましい）		西洋史特講 A-b、西洋史特講 D-a、西洋史文献講読 b、6 [アメリカ文化論、イギリス文化論、フランス文化論、ドイツ文化論]、6 [東洋史特講 a、東洋史特講 b、キリスト教文化論 b、国際関係論特講 A-b、法学特講 A-b、法学特講 C-b、女性論 b]	西洋史演習 b	
	前期				西洋史特講 A-a、西洋史特講 C-a、西洋史文献講読 a、6 [アメリカ文化史、イギリス文化史、フランス文化史、ドイツ文化史]、文総特殊講義 b(西洋史)、6 [キリスト教文化論 a、音楽社会学 a、国際関係論特講 A-a、法学特講 B-a、法学特講 C-a、女性論 a、近世・近代哲学史]	西洋史演習 a	
	後期		外国語科目（英、仏、独が望ましい）	西洋史入門、東洋史入門 a、東洋史入門 b	古代・中世哲学史	学科の他の教員の基礎演習	
	前期	西洋史				「歴史・思想」基礎演習 A	

思想の履修モデル

哲学 [美学]		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				哲学特講 A-d 哲学特講 B-d	哲学演習 d	
	前期				哲学特講 A-c 哲学特講 B-c [音楽社会学 b]	哲学演習 c	
2 年	後期	その他教養科目（文化総合学科 所定の履修要件を参考にするこ と）	外国語科目		哲学特講 A-b 哲学特講 B-b 倫 理 学 特 講 A-b (B-b) 現代哲学史 [身体表現論 造形 美術論]	哲学演習 b 倫理学演習 b	
	前期				哲学特講 A-a 哲学特講 B-a 倫 理 学 特 講 A-a (B-a) 近世・近代哲学史[映 像表現論 音楽社会 学 a]	哲学演習 a 倫理学演習 a	
1 年	後期		外国語科目	哲学入門 倫理学入門	古代・中世哲学史	学科の他の教員の基 礎演習	
	前期	哲学 倫理学				「歴史・思想」基礎演 習 D か E	

倫理学		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				倫理学特講 A-d 倫理学特講 B-d	倫理学演習 d	
	前期				倫理学特講 A-c 倫理学特講 B-c	倫理学演習 c	
2 年	後期	その他教養科目（文化総合学科 所定の履修要件を参考にするこ と）	外国語科目		哲学特講 A-b (B-b) 倫理学特講 A-b 倫理学特講 B-b 現代哲学史	哲学演習 b 倫理学演習 b	
	前期				哲学特講 A-a (B-a) 倫理学特講 A-a 倫理学特講 B-a 近世・近代哲学史	哲学演習 a 倫理学演習 a	
1 年	後期		外国語科目	哲学入門 倫理学入門	古代・中世哲学史	学科の他の教員の基 礎演習	
	前期	哲学 倫理学				「歴史・思想」基礎演 習 D か E	

思想 [美学]		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				哲学特講 A-d 哲学特講 B-d 倫理学特講 A-d 倫理学特講 B-d	哲学演習 d 倫理学演習 d	
	前期				哲学特講 A-c 哲学特講 B-c 倫理学特講 A-c 倫理学特講 B-c [音楽社会学 b]	哲学演習 c 倫理学演習 c	
2 年	後期	その他教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）			哲学特講 A-b 哲学特講 B-b 倫理学特講 A-b 倫理学特講 B-b 現代哲学史 [身体表現論 造形美術論]	哲学演習 b 倫理学演習 b	
	前期		外国語科目		哲学特講 A-a 哲学特講 B-a 倫理学特講 A-a 倫理学特講 B-a 近世・近代哲学史 [映像表現論 音楽社会学 a]	哲学演習 a 倫理学演習 a	
1 年	後期		外国語科目	哲学入門 倫理学入門	古代・中世哲学史	「歴史・思想」基礎演習 E	
	前期	哲学 倫理学	外国語科目			「歴史・思想」基礎演習 D	